

脳炎後に記銘力低下をきたした患者に対する運転支援を行った 1 症例

桔梗ヶ原病院

深澤 聡志、松塚 翔司、佐藤 理恵、園原 和樹

【はじめに】脳炎による記銘力低下をきたした患者の運転支援の報告は少ない。重度記銘力低下をきたした患者の運転支援の機会を得たので報告する。

【症例】50代男性，脳炎後に記銘力低下が残存しX年11月に自宅退院した。退院後は復職が可能であり，患者より運転の希望が聞かれた。X+1年9月に外来リハビリにて運転支援を行い，ドライブシミュレータを用いた訓練を実施した。

【結果】訓練にて，安全確認の不十分さと危険認識の低下が確認された。訓練の指摘内容をセラピストが書面にて渡し，患者に指摘内容の確認を促した。指摘直後の修正は可能だが，翌週の訓練では指摘の修正は困難であった。運転習慣の改善に至らずX+2年1月運転再開不能と判断した。

【結語】重度記銘力低下をきたした患者の運転支援は，誤りあり学習による学習効果がなく，運転習慣の改善が難しい。その為，記憶障害の患者では病前の運転習慣に着目した運転評価が重要と考えた。